



2023

1

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2023

2023シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten

マルハニ

LOTTE

ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第151回東京オペラシティ定期シリーズ

1月26日(木)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第978回サントリー定期シリーズ

1月27日(金)19:00開演 サントリーホール

第979回オーチャード定期演奏会

1月29日(日)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

1
/26

1
/27

1
/29

指揮：チョン・ミョンフン

コンサートマスター：三浦章宏

シューベルト：

交響曲第7番 口短調 D 759『未完成』(約28分)

- I. アレグロ・モデラート
- II. アンダンテ・コン・モート

ー 休憩 (約15分) ー

ブルックナー：

交響曲第7番 ホ長調(ノヴァーク版)(約65分)

- I. アレグロ・モデラート
- II. アダージョ：非常に荘厳に、かつ非常にゆっくりと
- III. スケルツォ：非常に速く
- IV. フィナーレ：運動的に、あまり速くなく

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura(1/29)



※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中のご入場は、かたくお断りいたします。楽章間のご入場については、楽曲の進行により係がご案内いたします。ご入場いただけない場合もございますので、ご了承ください。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 名誉音楽監督

韓国ソウル生まれ。マンネス音楽学校、ジュリアード音楽院でピアノと指揮法を学ぶ。1974年チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門第2位。その後ロスアンジェルス・フィルにてジュリーニのアシスタントとなり、後に副指揮者。ザールブリュッケン放送響音楽監督および首席指揮者(1984～1989)、パリ・オペラ座バステューユ音楽監督(1989～1994)、ローマ・サンタチェチーリア管首席指揮者(1997～2005)、フランス国立放送フィル音楽監督(2000～2015)。現在は名誉音楽監督、ソウル・フィル音楽監督(2006～2015)、シュターツカペレ・ドレスデンの首席客演指揮者(2012～)など歴任。1997年に本人が創設したアジア・フィルの音楽監督も務める。

2001年東京フィルハーモニー交響楽団のスペシャル・アーティスティック・アドヴァイザーに就任、2010年より桂冠名誉指揮者、2016年9月に名誉音楽監督に就任。ピアニストとして室内楽公演に出演するほか、アジアの若い演奏家への支援、ユニセフ親善大使、アジアの平和を願う活動など多岐にわたり活躍している。

楽曲紹介

シューベルトとブルックナー。この2人の作曲家には、宿命的に似たところがある。直線的にゴールへ進むのではなく、同じフレーズを反復して渦のごとき巨大なうねりを作ってゆくこと——ベートーヴェン以後のシンフォニーに新風を入れたその響きは、どこか無限につづく天国的な時間感覚へと、私たちの意識をいざなってくれる。

今回の“2つの7番”を、チョン・ミョンフンは「クラシック音楽を代表する最高傑作」と呼び、演奏するたびごとに「何か新しいものを見つけないか」作品だと語る。チョン・ミョンフンと東京フィルハーモニー交響楽団の手で『未完成』が鳴り響くのは16年ぶり、ブルックナーの7番はじつに20年ぶりである。音楽史に新しい道をひらいた2作が、混迷の時代にどんな「新しいもの」を灯してくれるだろうか。その時間にじっくり浸りたい。(堀 朋平)

シューベルト

解説＝堀 朋平

交響曲第7番 口短調 D 759『未完成』

フランツ・シューベルト(1797-1828)の第6番までの交響曲は、1年にほぼ1作の割合でスムーズに生み出され、半ばプライベートな場で披露された。そんな若書きのスタイルに、しかし23歳ころの青年は別れを告げ、大きな一歩を踏み出す。巨人ベートーヴェンを超える大曲を——。

この野心は、本作の調(口短調)にあらわれている。そう、これはベートーヴェンが交響曲で選ぶべくもない調だ。当時の管楽器では音が鳴らしにくいからである。堂々たる口短調作品の登場は、バルヴが活躍する時代——たとえばチャイコフスキーの『悲愴交響曲』(1893年)——を待たなくてはならなかった。

さて、構想はピアノスケッチをふまえて慎重に練られ、第2楽章まで完璧に仕上げられた。が、第3楽章で筆は止まる。表紙に「交響曲口短調 フランツ・シューベルト自筆」と書かれたスコアは、ウィーン南西の都市グラーツで音楽協会の監督を務めていた友人の手にわたった。この友人アンゼルス・ヒュッテンブレンナー

はピアノ譜を作って当地での上演を試みたのだが、けっきょく43年のあいだ陽の目を見ることがなかった。

興味深いことに、シューベルトが協会に送ったとされる感謝状は——さらにはスコアの表紙にある日付さえも——作曲家の筆ではない。それはヒュッテンブレンナーの筆跡と酷似する。つまり本作の成立年はじつは不詳である。自筆譜がいつどのようにして作



A.ヒュッテンブレンナー(中央)とシューベルト(右) J.D.テルチャーによるリトグラフ、1827年

曲家の手を離れたかも定かでない。いかなる名探偵も、200年前の出来事を跡づけるにいたっていない。

「未完成の謎」は深まるばかりなのだが、2つの楽章には“闇と光”をめぐる心からのメッセージが込められている。

第1楽章では、冒頭はやくも最低音に触れんとするコントラバスと、まんなかで轟くトロンボーンに注目しよう。花売りの歌に由来するとされる第2主題は、長-短の強打(当時「葬送」の意味をもつリズム)で断ち切られてしまう。つまりこの楽章は、“闇における歌の喪失”を描いている。

第2楽章の第1主題は、調も節まわしも、『冬の旅』で東の間の陽光を放つ「菩提樹」の囁きかけと同じだ。まもなく孤独なさすらいが回帰するも、光の主題がこれを包み込んで終わる。つまりこの楽章は、“光による歌の回復”を描いている。

「永遠なる至福の世界が、一挙に、まるで瞬間のうちに押しよせてくるのを僕は感じた……」。自筆メルヒェン(1822年7月3日)のラストは、第2楽章を言葉にしたものだろう。文学と音楽、歌曲と器楽のあいだで心情をまっすぐに吐露した人——それがシューベルトという作曲家である。

【作曲年代】1822年 【初演】1865年12月17日、ウィーンにて

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽5部

ほりともへい／1979年生まれ。国立音楽大学・西南学院大学ほか講師。専門は音楽美学。2013年、東京大学大学院・後期博士課程修了。博士学位論文にて日本シェリング協会研究奨励賞を受賞。近著『わが友、シューベルト』(アルテスパブリッシング、2023年)。

ブルックナー

解説=広瀬大介

交響曲第7番 木長調(ノヴァーク版)

1/26

1/27

1/29

生涯に交響曲と宗教曲以外をほとんど手がけなかったアントン・ブルックナー(1824-1896)にとって、オペラの世界で次々と革新的な音楽を生み出すリヒャルト・ワーグナーは、神の如き存在であったろう。1881年9月に交響曲第6番の作曲が終了し、同月には早くも「第7番」の作曲が始まっている。1882年には第1楽章、第3楽章の順に作曲が進められ、1883年1月に第2楽章のスケッチが完了した。2月13日、ワーグナーがヴェネツィアで客死。この報せを受け取ったとき、ブルックナーは第2楽章の仕上げを施していた。圧倒的な盛り上がりを見せ、やがて静かに終わっていくその終結部(練習番号X以降)について、ブルックナーは「巨匠のために心からの葬送音楽を書いた」と述懐している。同年9月5日には第4楽章の作曲を終わらせた。当時ライプツィヒ歌劇場で活躍していた指揮者アルトゥール・ニキシュに、この曲の初演を直談判し、1884年12月には同地での初演が実現。翌年にはミュンヘンでも演奏が続く。この上演によって、ウィーンにおいてもブルックナー作品への興味がかき立てられ、この作品は「はじめてブルックナーが大々的な成功を収めた」作品としての地位を確立した。

「第5番」では形式的要素を、「第6番」では歌謡的要素を前面に出したブルックナー。続く「第7番」では、両者をほどよく調和させようと試みたように思われる。「第5番」において、ブルックナーは複雑かつ精緻極まるポリフォニーを駆使し、バッハ以来のドイツ音楽の伝統をみずから完璧に身につけていることを印象づけた。逆に「第6番」では、その複雑さを反省したのか、敢えてわかりやすく、旋律そのものを聴かせる方向へと舵を切る。「第7番」が大成功を収めた要因のひとつには、こうした両極端な音楽の性質をバランスよく持ち合わせ、それを効果的に聴衆へと伝える術をブルックナーが会得したため、とは言えないだろうか。

かすかな弦楽器のトレモロとともにホルンとチェロによって第1主題が始まる**第1楽章**の冒頭こそ、「第4番」などと同様の、ブルックナー独自の曲冒頭部分である。3つの主題を順番に登場させる独自のソナタ形式も自身のこれまでの様式を踏襲しているが、50小節を超える規模の大きな終結部には、それらを突抜けた作曲家の自信があふれている。

この作品にも他の作品と同様に版問題が存在するが、作曲家自身が改訂を施していないので、初版(1885年)、ハース版(1944年)、ノヴァーク版(1954年)ともに、その違いは大きくない。もっとも議論となるのは、**第2楽章**の練習番号Wにおける打楽器の扱い。ティンパニ、トライアングル、シンバルは後から総譜に紙が貼られて付け足されたものの、その右上に「無効」と書き入れられている。レオポルト・ノヴァークは、この「無効」をブルックナーの筆跡ではないと判断して打楽器を採り入れたが、現在ではやはり作曲家の筆跡なのでは、という説も登場しており、その判断は指揮者に委ねられている。この楽章最後で活躍するワグナー・チューバは、『ニーベルングの指環』においてワグナーが陰鬱な地底の雰囲気を描写するために生み出したもの。独特の荘重な、それでいても哀しい雰囲気を生み出している。

第3楽章のトランペットによる冒頭主題は、雄鶏の朝の鳴き声からヒントを得た、といわれる。7度で下降するモチーフを自然につなぎ合わせる巧みに、ブルックナーの進境が感じられよう。**第4楽章**でも3つの主題が用いられるのは定例通りだが、第1主題を変形して登場する第3主題は、全楽器によるユニゾンで荒々しく演奏される。再現部では、普通は1、2、3の順番に演奏される主題が、逆に3、2、1の順で登場し、その輝かしい雰囲気のままに終結部へと至る。この交響曲の成功に自信を得たブルックナーは、各楽章の規模をより膨らませた形で、次の交響曲に取り組むこととなる。

【作曲年代】1881～1883年 【初演】1884年12月30日、ライプツィヒ歌劇場にて。アルトゥール・ニキシュ指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団による

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、ワグナーチューバ4、チューバ、ティンパニ、打楽器(トライアングル、シンバル)、弦楽5部

ひろせ・だいすけ(音楽学、音楽評論)／1973年生まれ。青山学院大学教授。日本リヒャルト・シュトラウス協会常務理事・事務局長。著書に『オペラ対訳×分析ハンドブック シュトラウス／楽劇 サロメ』(アルテスパブリッシング、2022)など。『レコード芸術』など各種音楽媒体での評論活動のほか、NHKラジオへの出演、演奏会曲目解説・CDライナーノーツの執筆、オペラ公演・映像の字幕・対訳などを多数手がける。

The 151st Tokyo Opera City Subscription Concert

Thu. Jan. 26, 2023, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 978th Suntory Subscription Concert

Fri. Jan. 27, 2023, 19:00 at Suntory Hall

The 979th Orchard Hall Subscription Concert

Sun. Jan. 29, 2023, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

26
Jan

27
Jan

29
Jan

Myung-Whun Chung, conductor

Akihiro Miura, concertmaster

Franz Schubert:

Symphony No. 7 in B minor, D 759 "Unfinished" (ca. 28 min)

- I. Allegro moderato
- II. Andante con moto

— intermission (ca. 15 min) —

Anton Bruckner:

Symphony No. 7 in E major (Nowak edition) (ca. 65 min)

- I. Allegro moderato
- II. Adagio: Sehr feierlich und sehr langsam
- III. Scherzo: Sehr schnell
- IV. Finale: Bewegt, doch nicht schnell

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (Jan. 29)



- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter just before the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- Late admittance will be refused during the live performance.

Artist Profile



©Takafumi Ueno

Myung-Whun Chung, conductor

Honorary Music Director of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Seoul, Myung-Whun Chung won the silver medal at the Tchaikovsky International Piano Competition in 1974. After completing conducting studies at the Juilliard School, he served as assistant and subsequently associate conductor to Carlo Maria Giulini at the Los Angeles Philharmonic. Since his appointment as Music Director of the Paris Opera (L'Opéra Bastille) in 1989, Maestro Chung has conducted many prominent orchestras, including the Vienna Philharmonic, the Berlin Philharmonic, and la Filarmonica della Scala. He served as the Music Director of l'Orchestre Philharmonique de Radio France (2000- 2015), the Seoul Philharmonic Orchestra (2006-2015) and the Asia Philharmonic Orchestra, which he founded in 1997. Since 2012, he has been Principal Guest Conductor of the Staatskapelle Dresden.

For the TPO, Maestro Chung was Special Artistic Advisor (2001- 2010), its Honorary Conductor Laureate (2010-2016). Starting September 2016, he was appointed as Honorary Music Director. He is active in education for the younger generations and in promotion of peace especially in Asia through a variety of musical activities and serving as UNICEF Ambassador.

Program Notes

Text by Robert Markow

Franz Schubert: Symphony No. 7 in B minor, D 759 "Unfinished"

Despite much scholarly research, we still do not know for certain why Schubert's B-minor Symphony lies unfinished. Numerous stories and theories, many of them romantically-tinged, have been advanced to explain the mystery: that Schubert lost interest, that he forgot about it, that he saw no possibility of performance, that the remaining movements were lost, that the symphony is complete in its two-movement format, and so on. Evidence strongly suggests that Schubert deliberately, though reluctantly, abandoned the project when he realized that he could not write a third and fourth movement on the same exalted level as the first two. Supporting evidence includes the fact that there exists a large number of other unfinished works from the same period of Schubert's life (many of them in minor keys), and that all Schubert's preceding symphonies, as well as the *Great C-Major* that followed, are in four movements. Furthermore, we now know that an almost complete, notably inferior Scherzo for the B-Minor Symphony was sketched out for piano, with nine bars orchestrated. Schubert realized that he was charting a new course at this point in his creative life, and that this new symphony would have to take into account what Beethoven had done in symphonic thought. Uncertain of how to proceed, he abandoned the symphony, unfortunately forever.

Schubert worked on the B-minor Symphony in the fall of 1822, then put it aside to devote his attention to the *Wanderer Fantasy*. When the Styrian Music Society of Graz conferred on him an honorary diploma (a rare public recognition of Schubert's achievements in his lifetime) in April of 1823, Schubert offered the incomplete symphony to the Society as a token of gratitude. In all likelihood he still intended to complete the symphony, but wanted the Society to have a new work of substantial proportions, even if still incomplete. The Symphony then passed into private hands

26
Jan

27
Jan

29
Jan

and did not resurface until 1860, 32 years after the composer's death. Five more years passed before the symphony received its first performance on December 17, 1865, which Johann Herbeck conducted in the large Redoubtensaal of Vienna's Hofburg.

By this time Schubert was widely revered in Vienna, so it comes as no surprise that the symphony was an immediate hit. Reviewing the first performance, the eminent critic Eduard Hanslick evoked the emotion in the air with these words: "When after the few introductory measures, clarinet and oboe in unison began their gentle *cantilena* above the calm murmur of the violins, every child recognized the composer, and a muffled 'Schubert' was whispered in the auditorium. He had hardly entered, but it seemed that one recognized him by his step, by his way of opening the door. And when, after this nostalgic *cantilena* in the minor, there followed the contrasting G-major theme of the cellos, every heart rejoiced, as if after a long separation, the composer himself were among us in person."

Melancholy, yearning and sadness seem to pervade the music, relieved by periodic episodes of gorgeous melody. The symphony opens in dark mystery with a theme in the low strings. Softly murmuring violins continue, the line decorated by oboe and clarinet. Cellos sing – and that is the only word for it – the lilting, waltz-like second subject. These ideas are later developed and build to a powerful climax. The second movement opens with a theme of angelic sweetness, followed by a plaintive, slowly rising theme in the clarinet. Twice this material builds to stormy emotional heights. The movement closes in a haze of seraphic serenity.

FRANZ PETER SCHUBERT: Born in Vienna, January 31, 1797; died in Vienna, November 19, 1828

Work composed: 1822 **World premiere:** December 17, 1865 in Vienna

Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, 2 trumpets, 3 trombones, timpani, strings

Anton Bruckner: Symphony No. 7 in E major (Nowak edition)

Anton Bruckner had long been accepted as a pedagogue and organist, but neither the public nor the critics had much use for his music, which consisted mostly of lengthy symphonies. All this changed with the Seventh Symphony, officially premiered by Arthur Nikisch and the Leipzig Gewandhaus Orchestra on December 30, 1884 when its composer was sixty. (There had been unofficial premiere the year before in Vienna.) This became the symphony, above all others, that finally led to Bruckner's acceptance, both in Vienna where he lived from his forty-fourth year onward, and throughout the entire western world. It was the first to be recorded (back in the 1920s) and it has remained, along with the Fourth, the most popular of Bruckner's eleven symphonies.

26
Jan27
Jan29
Jan

The noble, lofty quality of Bruckner's music stands in eloquent testimony to his profound religious faith. Images of vast spaces within towering cathedrals inevitably come to mind. A special breadth and grandeur infuse his music; time takes on new dimensions and meaning.

And so it is with the Seventh. It begins, as do many of Bruckner's symphonies, "out of nothingness." A broad, sweeping theme, the longest Bruckner ever wrote, slowly unfolds against a background of shimmering violins. The second subject, announced by the oboe and clarinet, is also lyrical, but moves stepwise rather than in large intervals. A third subject, rather more a bouncy rhythmic figure than a theme, is first heard quietly in the unison strings. Bruckner then proceeds to develop his themes with inversions, modulations and fragmentations, exchanging and combining elements amongst various instrumental groups as in a cosmic mosaic. A grandiose fanfare of the opening theme concludes the movement.

The deep, solemn sound that strikes the ear in the opening bars of the *Adagio* movement seldom fails to astonish. The unique sonority is produced by a quartet of Wagner tubas (plus the standard contrabass tuba) being used for the first time in any symphony, and quite possibly for the

first time since Wagner himself had introduced them in his *Ring* cycle, completed in the early 1870s. The first subject contains three separate elements that will become material for further development. The spell of solemnity and meditative dignity cast by the opening material eventually opens out onto a radiant new vista with one of Bruckner's most sweetly lyrical and soaring themes in the violins. Bruckner then proceeds to structure his movement on that of the *Adagio* of Beethoven's Ninth, alternating the two large blocks of thematic material in a ABABA pattern.

The use of the Wagner tubas is tangible evidence of Bruckner's reverence for the Master of Bayreuth. After learning of Wagner's death in 1883, Bruckner extended the *Adagio* movement to feature the Wagner tubas in a solemn elegy "in memory of the immortal and dearly beloved Master." Following the coda's outpouring of grief, the movement ends in a spirit of consolation. After Bruckner's death in 1896, this movement was played at memorial services for its own composer.

The Scherzo is based on an incessant rhythmic figure over which the trumpet proclaims the principal theme, with the octave leap and dotted rhythm somewhat reminiscent of the Scherzo in Beethoven's Ninth Symphony. The central Trio section is relaxed and genial. Bruckner uses a key that he has all but completely avoided thus far, F major, resulting in the feeling of another fresh start. The English critic Neville Cardus describes it as "a nostalgic memory of little Styrian villages, cozy low-raftered interiors and check table-cloths at noon, birdcalls and hazy distances."

The Finale begins with an energetic theme related to the opening of the first movement. This and further themes are put through various modulations and contrapuntal developments, and the huge symphonic edifice ends majestically with the broad theme that opened the work more than an hour before.

ANTON BRUCKNER: Born in Ansfelden, Austria, September 4, 1824; died in Vienna, October 11, 1896

Work composed: 1881-83 **World premiere:** December 30, 1884 at the Opernhaus Leipzig by the Leipzig Gewandhaus Orchesra conducted by Arthur Nikisch

Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, 4 Wagner tubas, tuba, timpani, percussion (triangle, cymbals), strings

26
Jan27
Jan29
Jan

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

2023 season Subscription Concerts Lineup

"Alongside its overwhelming plethora of culturing offerings, the Japanese capital is host to several orchestras, the most prestigious among them being the Tokyo Philharmonic. This season combines venerable elder musicians with fiery young soloists and conductors" -- Bachtrack

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary of Japan's first symphony orchestra. Join us for the ultimate concert experience! Single tickets for concerts from February to May are now available.

February

conductor: **Mikhail Pletnev**, special guest conductor **piano:** **Yunchan Lim**

Wed. Feb 22, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri. Feb 24, 19:00
at Suntory Hall

Sun. Feb 26, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Beethoven:
Piano Concerto No. 5 "*Emperor*"
Tchaikovsky:
Manfred Symphony

Single tickets available

March

conductor: **Andrea Battistoni**, chief conductor

Thu, Mar 9, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri, Mar 10, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Mar 12, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Berlioz:
the *Roman Carnival* Overture
Alfredo Casella:
Italia, Rhapsody for orchestra
Saint-Saëns:
Symphony No. 3 "*Organ*"

Single tickets available

May

conductor: **Mikhail Pletnev**, special guest conductor

Wed, May 10, 19:00
at Suntory Hall

Fri, May 12, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, May 14, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Rachmaninov:
The Rock
Isle of the Dead
Symphonic Dances
<The 150th anniversary of Rachmaninov's birth>

Single tickets available

June

conductor: Tadaaki Otaka, conductor laureate **piano: Masaya Kamei**

Fri, Jun 23, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jun 25, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Jun 27, 19:00
at Suntory Hall

Atsutada Otaka:
IMAGE for orchestra
Rachmaninov:
Piano Concerto No. 2
Rachmaninov:
Symphony No. 1

Single tickets will be available from April on

July

conductor: Myung-Whun Chung, honorary music director

Sun, July 23, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Thu, July 27, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Mon, July 31, 19:00
at Suntory Hall

Verdi:
opera *Otello* in concert style
Libretto by Arrigo Boito (in Italian),
after Shakespeare.

Single tickets will be available from April on

October

conductor: Chloé Dufresne violin: **Lina Nakano**

Wed, Oct 18, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Thu, Oct 19, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Oct 22, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Lili Boulanger:
Of a Spring Morning
Saint-Saëns:
Violin concerto No. 3
Berlioz:
Symphonie fantastique

Single tickets will be available from April on

November

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor **cello: Haruma Sato**

Fri, Nov 10, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Nov 12, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Thu, Nov 16, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Tchaikovsky:
The Tempest
Variations on a Rococo Theme
Hamlet
Romeo and Juliet Fantasy Overture

Single tickets will be available from April on

Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with non-contact thermometer and so on.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium.

Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Thank you for your Cooperation!

東京フィルだより — 2023年シーズン今後の定期演奏会

2月の定期演奏会

第152回東京オペラシティ定期シリーズ

2月22日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第980回サントリー定期シリーズ

2月24日(金) 19:00 サントリーホール

第981回オーチャード定期演奏会

2月26日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)

ピアノ：イム・ユンチャン*

(2022年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール優勝)

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*

チャイコフスキー／マンフレッド交響曲



◀ Youtube

イム・ユンチャンからのメッセージ



ミハイル・プレトニョフ

©上野隆文



イム・ユンチャン

©Lisa Marie Mazzucco

3月の定期演奏会

第153回東京オペラシティ定期シリーズ

3月9日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第982回サントリー定期シリーズ

3月10日(金) 19:00 サントリーホール

第983回オーチャード定期演奏会

3月12日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

ベルリオーズ／序曲『ローマの謝肉祭』

カゼツラ／狂詩曲『イタリア』(カゼツラ生誕140年)

サン＝サーンス／交響曲第3番『オルガン付き』



アンドレア・バッティストーニ

©上野隆文



◀ Youtube

マエストロからの
メッセージ

【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時／発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)



イム・ユンチャン、 その稀有な才能を聴く

文＝高坂はる香

©Richard Rodriguez

共演者たちを奮い立たせ、刺激することのできる、稀有なピアニスト

コンチェルトにおいては、指揮者はもちろんだが、ソリストの音楽性によっても、オーケストラの表現力やキャパシティは大きく変わる。イム・ユンチャンは18歳という若さにして、共演者たちを奮い立たせ、刺激することのできる、稀有なピアニストだ。

2022年6月にアメリカのテキサス州フォートワースで開催された、ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール。アメリカを中心に国際的なキャリアが拓けるその重要なコンクールで、2004年に生まれ、韓国芸術総合学校で学ぶ若者が、史上最年少の金メダルに輝いた。

フランス・バロックからロシア近代まで趣向を凝らしたプログラムを聴かせた予選とクォーター・ファイナルの演奏、そしてリスト「超絶技巧練習曲」全曲を弾いたセミファイナルなど、彼が特異な才能を感じさせる場面は多々あった。しかし金メダル

を決定づけたのは、やはりファイナルのピアノ協奏曲だったといえる。このコンクールはピアニストに多くを求めることが知られているが、そのゆえんの一つに、協奏曲の課題の多さがある。セミファイナルでモーツァルトの協奏曲を、さらにファイナルで2つの協奏曲を演奏しなくてはならないのだ。



ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール、ファイナルでのイム ©Ralph Lauer

若々しさを残しつつ音楽に没入して繰り広げる表現

イム・ユンチャンがファイナルで選んだのは、まずベートーヴェンのピアノ協奏曲第3番。オーケストラとのコミュニケーションに苦勞するファイナリストが多かった中、彼は各楽器奏者たちと自然にコンタクトをとり、この作品の魅力をくっきり描き出してみせた。

もう1曲に選んだのは、超絶技巧を要するレパートリーの筆頭であるラフマニノフのピアノ協奏曲第3番。それまでのステージでも圧倒的なテクニックを見せてきた彼だけに、難曲をものともしないキレのあるタッチは期待通り。加えて、若々しさを残しつつ音楽に没入して繰り広げる表現には、確かな説得力があった。探究の末、楽曲の本質を愛していることが伝わってくる。卓越したテクニックは、そうして生まれた豊かなアイデアを自在に音にすることを助けていた。



特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ ©上野隆文

そしてそんなピアノに鼓舞されて、オーケストラもそれまでとは別の団体のように嬉しげに音楽を奏でていた。ソリストでこれほどに変わるものかと驚いたほど。ステージに現れた際の内気そうな外見とはうらはらに、音楽では饒舌に語り、オーケストラや聴衆とコミュニケーションができるピアニストなのだ。

「音楽を愛する気持ちと、音楽のために自分を捧げようとする気持ち」

今回、東京フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会でイム・ユンチャンは、ミハイル・プレトニョフの指揮のもと、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番『皇帝』を演奏する。

まず楽しみなのは、ピアノの巨匠でもあるプレトニョフが、この新星に対してどんな関心を示すのかということ。孫世代の稀有なピアノの才能をどう受け入れ、あるいは刺激しようとするだろうか。

もう一つ期待せずにいられないのは、イム・ユンチャンの卓越したテクニックとあの気持ちのいいほどに通る輝かしい音が、『皇帝』の堂々たる音楽をいかに打ち鳴らすのかということ。彼のこななので、その若さからは想像もつかないような精神性も感じさせてくれるだろう。

以前、彼が受けてきた教育について尋ねたところ、現在師事する韓国の師から元をたどるとリストやベートーヴェンに行きつくのだと、静かに、しかし誇らしそうな口調で話してくれた。また、古いロシアン・スクールのピアニストたちを中心に、数々の古い録音を聴いて育ったという。クラシック正統派のピアニストとして受け継ぐべきものがあるという自覚も、今回の演目からは垣間見られそうだ。

イム・ユンチャンは、自分を金メダルに導いてくれたものは何かと聞かれ、こう答えていた。

「音楽を愛する気持ちと、音楽のために自分を捧げようとする気持ち。この二つだと思う」

音楽に真摯な姿勢を持つ、稀有な若いピアニスト。プレトニョフ、東京フィルとどんなふう刺激しあい、どんな音楽を生み出すのだろうか。



公演情報詳細は19ページをご参照ください。

「ベートーヴェンは『皇帝』という作品で彼の“ユートピア”を描いたと思います」と語るイム ©Lisa-Marie Mazzucco

高坂はる香(こうさか はるか / 音楽ライター)

大学院でインドのスラムの自立支援プロジェクトを研究。その後、ピアノ専門誌の編集者を経て、2011年よりフリーライターとして活動。世界のピアノコンクールの取材を行い、現地レポートも配信している。著書に「キンノヒマワリ ピアニスト中村紘子の記憶」(集英社刊)。HP「ピアノの惑星ジャーナル」/ twitter @classic_indobu

2月定期演奏会ソリスト、イム・ユンチャンが語る ～12月の初来日記者懇親会より

東京フィル2023シーズン2月定期演奏会に登場する人気沸騰中のピアニスト、イム・ユンチャン。12月初旬に初来日を果たし、満席のサントリーホールでリサイタルを行いました。先立って駐日韓国大使館 韓国文化院で行われた記者懇親会に登場。2月の東京フィル定期、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフとの共演について語りました。

「プレトニョフ先生は、ピアニストとしても、私たちピアニストが最も尊敬する方の一人です。すべての音楽家がマエストロと一緒に演奏したいと願っています。そのような偉大な演奏家の方と一緒に音楽を作ることができることを、とても光栄に思っています。——お客様がたとえたった一人でも、あるいは何千人いても、作曲家がその曲を作ったときの心と私の個人的な解釈を説得力のあるものとして演奏することが私の一番の目標です。2月の演奏会もその心は変わりません。素晴らしいオーケストラ、素晴らしい指揮者の方と一緒に音楽ができるのはとても光栄なことです。(国籍を超えて音楽家が共演することについて)国籍を離れて、音楽家、また一人の芸術家と一緒に何かを作ることは特別に意味を持っていると思います」



「取材で何かを話すときはとても緊張します」と言いながらも、落ち着いた物腰で、ときに笑顔を見せながら話してくれました

2月定期演奏会に向けた動画メッセージはこちらのQRコードからご覧ください ▶



響きの森クラシック・シリーズ 2023-2024 シーズン再開!

東京フィルが事業提携を結ぶ東京都文京区、文京シビックホールでの人気シリーズ「響きの森クラシック・シリーズ」がいよいよ再開! ただ今シリーズセット券を期間限定で発売中です。リニューアルした文京シビックホールでの新たなシーズンを、お求めやすいセット券でお楽しみください。

会場: 文京シビックホール 大ホール

主催: 公益財団法人 文京アカデミー(文京シビックホール)(vol. 76, 77, 78) / 公益財団法人 東京フィル
ハーモニー交響楽団(vol. 79)

Vol.76 7月8日(土) 15:00開演

指揮: 小林研一郎

ヴァイオリン: 服部百音*

チャイコフスキー／歌劇『エフゲニー・オネーギン』より
ポロネーズ、ヴァイオリン協奏曲*、交響曲第5番



©山本倫子

©Yuji Inagaki

Vol.77 10月21日(土) 15:00開演

指揮: 角田鋼亮

ピアノ: 森本隼太*

ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲*、交響曲第2番 ほか



©Hikaru Hoshi

Vol.78 2024年1月20日(土) 15:00開演

指揮: 小林研一郎

ピアノ: 松田華音*

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番*

ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』



©K.Miura

©Ayako Yamamoto

Vol.79 2024年3月9日(土) 15:00開演

指揮: アンドレア・パッティストーニ(首席指揮者)

ピアノ: 阪田知樹*

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第3番*、ヴォカリーズ

ラヴェル／ボレロ



©Takafumi Ueno

©Hideki Nakai

料金(4回セット券)(全席指定・税込) S席¥17,500 A席¥14,500 B席¥12,500

チケット取扱い シビックチケット03-5803-1111(10時~19時/土・日・祝休日も受付)

※セット券は4月30日(日)までの期間限定販売です。

※セット券は全公演同一席となります。

※1回券の販売情報はウェブサイト、チラシ等で順次ご案内いたします。詳しくは文京アカデミーウェブサイトもご覧ください。<https://www.b-academy.jp/hall/>

2022年12月よりヴィオラ・フォアシュピーラーに杉浦 文(すぎうら あや)が入団いたしました。

「はじめまして、杉浦 文と申します。

高校生でオーケストラの魅力に取りつかれて以来、がむしゃらに走り続けて、ついに！ 伝統ある東京フィルの一員として活動させていただけるとのこと、喜びでいっぱいです。皆様と共に音楽ができる幸せを胸に、日々精進して参ります。

楽器を弾いていない時には鉄道と飛行機を眺めている時間が至福のひとつです。

皆様、これからどうぞよろしくお願い申し上げます！」



1月よりヴィオラ・フォアシュピーラーに今川 結(いまがわ ゆい)が入団いたしました。

「皆様、はじめまして、ヴィオラの今川 結です。

私は、一人一人が違う音色を持ち、それが一つとなった音の渦の中で演奏することができる『オーケストラ』が大好きです。

これから東京フィルの一員として、シンフォニーだけでなく、大好きなオペラやバレエを素晴らしい共演者の皆様と演奏できること、そしてそれをお客様と共有できますことをとても幸せに思います。

どのような景色が待っているのかとても楽しみです。どうぞよろしくお願いいたします。」



1月より打楽器に中村勇輝(なかむら ゆうき)が入団いたしました。

「皆さん、はじめまして。打楽器の中村勇輝です。

伝統ある素晴らしいオーケストラに入団させていただき心より嬉しく思っております。

これから東京フィルの一員としてお客様に素敵な音楽をお届けできるよう精一杯努めて参ります。よろしくお願い致します。」



2023シーズン 今後の定期演奏会

新しい年を迎え、東京フィルの2023シーズンがいよいよ始まりました。今季も名匠と俊英のタクトのもと、若く才能あふれるソリストたちとの協演をお届けしてまいります。

“オペラの東京フィル”が誇る《オペラ演奏会形式》上演は、名誉音楽監督チョン・ミョンフンによるヴェルディの傑作『オテロ』（7月定期演奏会）。7月定期を含む下半期の1回券は4月発売。他にも要注目の演目が盛りだくさんです。お聴き逃しなく！

6・7・10・11月定期の1回券発売スケジュール

最優先(賛助会員・定期会員様)	4月8日(土)10:00～ ※お電話のみ
優先(東京フィルフレンズ会員様)	4月15日(土)10:00～ ※お電話のみ
WEB優先 (インターネットから どなたでも1割引)	4月15日(土)10:00～4月24日(月)23:59
一般	4月25日(火)10:00～

2月

指揮: ミハイル・プレトニョフ
(特別客演指揮者)
ピアノ: イム・ユンチャン*
(2022年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール優勝)
第152回 2月22日(水)19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第980回 2月24日(金)19:00
サントリーホール
第981回 2月26日(日)15:00
Bunkamuraオーチャードホール

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*
チャイコフスキー／マンフレッド交響曲

1回券発売中

3月

指揮: アンドレア・バッティストーニ
(首席指揮者)
第153回 3月9日(木)19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第982回 3月10日(金)19:00
サントリーホール
第983回 3月12日(日)15:00
Bunkamuraオーチャードホール

ベルリオーズ／序曲『ローマの謝肉祭』
カゼッラ／狂詩曲『イタリア』
(カゼッラ生誕140年)
サン＝サーンス／交響曲第3番『オルガン付き』

1回券発売中

5月

指揮: ミハイル・プレトニョフ
(特別客演指揮者)
第984回 5月10日(水)19:00
サントリーホール
第154回 5月12日(金)19:00
東京オペラシティ コンサートホール
第985回 5月14日(日)15:00
Bunkamuraオーチャードホール

ラフマニノフ／幻想曲『岩』
ラフマニノフ／交響詩『死の島』
ラフマニノフ／交響的舞曲
(ラフマニノフ生誕150年)

1回券発売中

6月 指揮: 尾高忠明 (桂冠指揮者) ピアノ: 亀井聖矢* (2022年ロン＝ティボー国際音楽コンクールピアノ部門優勝) 第155回 6月23日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第986回 6月25日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第987回 6月27日(火) 19:00 サントリーホール	尾高惇忠／オーケストラのための『イマージュ』 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番* ラフマニノフ／交響曲第1番 (ラフマニノフ生誕150年) 1回券 4月発売
7月 指揮: チョン・ミョンフン (名誉音楽監督) ※出演者調整中 第988回 7月23日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第156回 7月27日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第989回 7月31日(月) 19:00 サントリーホール	ヴェルディ／歌劇『オテロ』 オペラ演奏会形式 1回券 4月発売
10月 指揮: クロエ・デュフレヌ (2021年プザンソン国際指揮者コンクール聴衆賞、オーケストラ賞) ヴァイオリン: 中野りな* (2022年仙台国際音楽コンクール優勝) 第157回 10月18日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第990回 10月19日(木) 19:00 サントリーホール 第991回 10月22日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	リリ・ブーランジェ／春の朝に (リリ・ブーランジェ生誕130年) サン＝サーンス／ヴァイオリン協奏曲第3番* ベルリオーズ／幻想交響曲 1回券 4月発売
11月 指揮: アンドレア・バッティストーニ (首席指揮者) チェロ: 佐藤晴真* (2019年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝) 第992回 11月10日(金) 19:00 サントリーホール 第993回 11月12日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第158回 11月16日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	チャイコフスキー／幻想曲『テンペスト』 チャイコフスキー／ロココの主題による変奏曲* チャイコフスキー／幻想序曲『ハムレット』 チャイコフスキー／幻想序曲『ロメオとジュリエット』 (チャイコフスキー没後130年) 1回券 4月発売

問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (平日10時～18時・土日祝日休／
 発売日の土日祝は10時～16時)
 URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)

詳細は



午後のコンサート 2023シーズンのラインナップ

大人気シリーズ「午後のコンサート。」2023シーズンのラインナップが決定いたしました！ オークストラの名曲と音楽家のお話とおきのお話で楽しむ午後のひととき。今年もぜひ、東京フィルの午後のコンサートをお楽しみください。

渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

5月7日(日) 第17回

指揮とヴィオラとお話:

ピンカス・
ズーカーマン

ヴァイオリン: 三浦文彰



©Cheryl Mazak

©Yuji Hori

9月18日(月・祝) 第19回

指揮とお話: 角田鋼亮

ゲスト(ピアノ):

園田隆一郎、
三ツ橋敬子



©Hikaru Hoshi

©Earl Ross

7月9日(日) 第18回

指揮とお話: 小林研一郎

ヴァイオリン: 服部百音

※7月6日「平日の午後のコンサート」と一部同演目です。



©山本倫子

©Yuji Inagaki

11月5日(日) 第20回

指揮とお話: 円光寺雅彦

ピアノ: 清塚信也

※11月6日「平日の午後のコンサート」と同演目です。



©三浦典一

©Kunito Watanabe

※東急百貨店本店跡地の再開発に伴い、「渋谷の午後のコンサート」は当面の間、週末の開催になります。

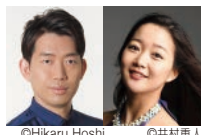
平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

5月1日(月) 第29回

指揮とお話: 角田鋼亮

ピアノ: 五十嵐薫子

2022年ジュネーヴ国際音楽コン
クール第3位



©Hikaru Hoshi

©井村重人

8月7日(月) 第31回

指揮とお話: 出口大地

ピアノ: 清水和音



©hiro.pberg_berlin

©Mana Miki

7月6日(木) 第30回

指揮とお話: 小林研一郎

ピアノ: 小林亜矢乃

※7月9日「渋谷の午後のコンサート」と一部同演目です。



©山本倫子

©Hiromi Uchida

11月6日(月) 第32回

指揮とお話: 円光寺雅彦

ピアノ: 清塚信也

※11月5日「渋谷の午後のコンサート」と同演目です。



©三浦典一

©Kunito Watanabe

休日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00

4月15日(土) 第96回

指揮とお話: 和田一樹

サクソフォン: 上野耕平



©RINZO

9月3日(日) 第98回

指揮とお話: 小林研一郎

ピアノ: 小林亜矢乃



©上野隆文

©Hiromi Uchida

6月11日(日) 第97回

指揮とお話: 出口大地

ヴァイオリン: 松田理奈



©hiro.pberg_berlin

©Akira Muto

12月3日(日) 第99回

指揮とお話: 円光寺雅彦

ヴァイオリン: 廣津留すみれ



©K.Miura

©Ryuto Kurokawa

曲目等詳細は東京フィルウェブサイトまたは別途配布するご案内をご覧ください。

午後のコンサート。 2023シーズンの発売スケジュールについて

◆4回セット券の新規発売日について

※2022シーズンの4回セット券をご購入されていないお客様が対象です。

最優先(賛助会員様、定期会員様)	2023/1/28(土)10時～ ※お電話のみ
優先(東京フィルフレンズ会員様)	2/4(土)10時～ ※お電話のみ
優先(WEB優先発売)	2/4(土)10時～2/20(月)23時59分
一般発売	2/21(火)10時～

◆1回券の発売スケジュール

	4月・5月・6月公演	7月・8月・9月公演	11月・12月公演
最優先※お電話のみ (賛助会員様、定期会員様)	3/7(火)10:00	5/16(火)10:00	8/22(火)10:00
優先※お電話のみ (東京フィルフレンズ会員様)	3/11(土)10:00	5/20(土)10:00	8/26(土)10:00
優先(WEB優先発売)	3/11(土)10:00～ 3/21(火・祝)23:59	5/20(土)10:00～ 5/29(月)23:59	8/26(土)10:00～ 9/4(月)23:59
一般発売	3/22(水)10:00	5/30(火)10:00	9/5(火)10:00

※1回券は4回セット券の発売後、残席ある場合のみ販売いたします。

チケット料金	S席	A席	B席	C席
4回セット券(定価)	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
(東京フィルフレンズ会員)	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560
1回券(定価)	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
(東京フィルフレンズ会員)	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※1回券は4回セット券の発売後、残席ある場合のみ販売いたします。

◆東京フィルフレンズ会員とは:

入会金・年会費無料の「東京フィルフレンズ」にお申込みいただくと、東京フィルの主催公演チケットを一般発売日に先駆けて「優先発売日」に定価の10%割引でご購入いただけます。メールまたはお電話で東京フィルチケットサービスまでお申し込みください。

◎メール:住所・氏名・フリガナ・電話番号・生年月日をご記入の上、concert@tpo.or.jp までメールでお送りください。

◎お電話:東京フィルチケットサービス03-5353-9522までお申し込みください。

※優先予約・割引でのお求めは東京フィルチケットサービスまでお電話にてご連絡ください。

お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (平日10時～18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時～16時で営業)



Photo Reports 2022年10～12月の演奏会より

2022シーズン最後の定期演奏会は名誉音楽監督チョン・ミョンフンによるオペラ演奏会形式公演、ヴェルディの歌劇『ファルスタッフ』。「喜劇といえども侮ってはならない、とても高尚な作品なのです」とマエストロ。「オーケストラにもドラマに参加してほしい」と語り、10人のソリストとともにオーケストラや合唱団、そしてマエストロも一体となって舞台を創り上げました。

写真=上野隆文(10月定期、『第九』)、K.Miura(ニューイヤーコンサート)

10月定期演奏会(10/20,21,23)

指揮・演出：チョン・ミョンフン
(名誉音楽監督)

ファルスタッフ(バリトン)：

セバスティアン・カターナ

フォード(バリトン)：須藤慎吾

フェントン(テノール)：小堀勇介

カイウス(テノール)：清水徹太郎

バルドルフォ(テノール)：大槻孝志

ピストーラ(バス・バリトン)：加藤宏隆

アリーチェ(ソプラノ)：砂川涼子

ナンネッタ(ソプラノ)：三宅理恵

クイックリー(メゾ・ソプラノ)：中島郁子

メグ(メゾ・ソプラノ)：向野由美子

合唱：新国立劇場合唱団

(合唱指揮：河原哲也)

バンダ(ギター)：村治奏一

コンサートマスター：近藤薫

演出補：家田淳 / 舞台監督：幸泉浩司 /
舞台監督助手：小田原稜、山田真代 / 照
明：喜多村貴 劇光社 / 音響：オルフェ
オ / 小道具・衣裳：アートクリエイション、
東京衣裳、新納大介 / 字幕：増田恵子(原
訳：アンナ上山) / 字幕操作：Zimakuブ
ラス(高橋結実)
カヴァー：上江隼人 / 音楽スタッフ：鈴木
恵里奈、山中麻鈴

ヴェルディ／ 歌劇『ファルスタッフ』 (オペラ演奏会形式)

原作：ウィリアム・シェイクスピア『ウィン
ザーの陽気な女房たち』『ヘンリー四世』
台本：アッリーゴ・ボーイト



サントリー定期シリーズ舞台リハーサルより。マエストロは今回の公演で演出や「ジャルレッティエーラ亭の主人役」も担当。ファルスタッフ役カターナ氏も好演



演奏中、笑顔を見せるマエストロ



マエストロの演出プランは照明・音響・小道具・衣裳に至るまでアイデア満載。オーケストラも巻き込んで楽しい舞台を創り上げました。



初日サントリー定期シリーズのカーテンコールより

第28回平日の午後のコンサート(10/31)
〈オーケストラ・クライマックス〜ピアノ協奏曲編〜〉

指揮とお話：円光寺雅彦 ピアノ：清塚信也*

ブラームス／ハンガリー舞曲第1番

チャイコフスキー／ピアノ協奏曲第1番より第1楽章*

ショパン／ピアノ協奏曲第1番より第2楽章*

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番より第3楽章*

【ソリスト・アンコール】サン＝サーンス(清塚信也編曲)／序奏とロンド・カプリチオーソ
ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲『展覧会の絵』

【オーケストラ・アンコール】J.シュトラウス／ラデツキー行進曲



「おとうさんにしたい指揮者ナンバーワン」と自己紹介で会場をほのぼのとさせたマエストロ円光寺雅彦と、「ピアノも弾ける」と軽妙なトークを展開したピアニスト清塚信也

第16回渋谷の午後のコンサート(11/24) / 第95回休日の午後のコンサート(11/27)
〈クリスタル・クラシック〉

指揮とお話：大井剛史 ソプラノ：森 麻季

ドヴォルザーク／序曲『謝肉祭』、わが母の教えたまいし歌*、歌劇『ルサルカ』より「月に寄せる歌」*

山田耕筰／からたちの花*、赤とんぼ*、この道*

ブッチーニ／歌劇『ラ・ボエーム』より「私が街を歩けば」*

ドヴォルザーク／交響曲第8番

【オーケストラ・アンコール】ドヴォルザーク／スラヴ舞曲第8番



森麻季さんは前半プログラムでオペラアリアや日本歌曲、6曲を歌い上げ、「質問コーナー」でも楽しいお話を聴かせてくれました。

第九特別演奏会(12/22、25)

12月22日(木)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

12月25日(日)15:00 Bunkamura オーチャードホール

指揮：尾高忠明(東京フィル 桂冠指揮者)

ソプラノ：迫田美帆、アルト：中島郁子、テノール：清水徹太郎、バリトン：上江隼人

合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：河原哲也)

ベートーヴェン／

バレエ音楽『プロメテウスの創造物』序曲

交響曲第9番『合唱付』

協賛：株式会社オーディオテクニカ(12/22)

楽天カード株式会社(12/25)



ニューイヤーコンサート2023～どこかで出会った、あのメロディ～(1/2、3)

指揮：出口大地 ヴァイオリン：廣津留すみれ(1/2のみ) ピアノ：亀井聖矢(1/3のみ)

司会：朝岡 聡

J. シュトラウスⅡ／ワルツ『美しく青きドナウ』

ピアソラ／『ブエノスアイレスの四季』より「冬」(1/2)

サン＝サーンス／序奏とロンド・カプリチオーソ(1/2)

リスト／ピアノ協奏曲第1番(1/3)

お客様の投票で演奏曲が決まる「福袋プログラム」

エルガー／行進曲『威風堂々』第1番

1/2 パッヘルベル／カノン、J. ウィリアムズ／『スター・ウォーズ』よりメイン・タイトル

1/3 J. ウィリアムズ／『ハリー・ポッター』よりテーマ

チャイコフスキー／バレエ音楽『くるみ割り人形』より「花のワルツ」

ラヴェル／ボレロ



オーケストラ・キャラバン 氷見市制施行70周年記念事業 氷見市芸術文化館 オープニングシリーズ スペシャル・ニューイヤーコンサート(1/9)

会場：氷見市芸術文化館

指揮：梅田俊明 ピアノ：清水和音* ヴァイオリン：松田理奈**

J.シュトラウスⅡ／ワルツ『春の声』、ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番『皇帝』*、

メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲**、ラヴェル／ボレロ

東京フィル定期演奏会
～2022シーズンのレビューから～



2月定期演奏会（井上道義指揮・大井浩明ピアノ）

2/24,25,27

曲目: エルガー／序曲『南国にて』、クセナキス／ピアノ協奏曲第3番『ケクロプス』（1986）【日本初演】、ショスタコーヴィチ／交響曲第1番

「(…)井上道義による演奏にはいつも、作曲家がはりめぐらしたさまざましながら
みを理解しつつ、しかし一気にその先へ突き抜けてその音楽的な核を引き抜い
てくる、なにかそうした、直観的な、特権的な瞬間がある。(…)北と南、というコン
サートのコンセプトは、井上と東京フィルの持つこのイマージュの力を引き出すに
相応しい」(秋元陽平／メルキュール・デザール)

3月定期演奏会（ミハイル・プレトニョフ指揮）

3/10,11,13

曲目: スメタナ／連作交響詩『わが祖国』（全曲）

「(…)眼前に現れたのは、これまで聴いたことのない「わが祖国」だった」「プレト
ニョフほど、美的な質感を生み出すバランス感覚に優れた指揮者を私は知らない」
「大仰な身ぶりは一切せず、ほんの少しの動きのアクセントで、実に豊かな起
伏とニュアンスをつくりだす。東京フィルがその変化に、驚くべき集中と感度の良
さで応える。」(吉田純子／朝日新聞デジタル)

5月定期演奏会（チョン・ミョンフン指揮）

5/18,20,22

曲目: フォーレ／組曲『ペレアスとメリザンド』、ラヴェル／『ダフニスとクロ
エ』第2組曲、ドビュッシー／交響詩『海』、ラヴェル／『ラ・ヴァルス』

「(…)マエストロチョン・ミョンフン&東京フィルによる華麗な音色、抒情美、ダイナ
ミズムに満ちた音楽を堪能」(Liveen Times) ／「チョン・ミョンフン&東京フィルの
『海』は、これまで聴いた同曲の生演奏中のベスト」(柴田克彦／毎日新聞クラシ
クナビ「先月のピカイチ」)

6月定期演奏会（ミハイル・プレトニョフ指揮）

6/8,9,12

曲目: シCHEDリン／カルメン組曲、チャイコフスキー／『白鳥の湖』より(プレトニョフによる特別編集)

「この超名作にまったく別の角度からスポットライトを向ける結果を生み、めったになく新鮮な体験を与えてくれた」(柴田龍一／音楽の友)

7月定期演奏会（出口大地指揮、木嶋真優ヴァイオリン）

7/7,10,12

曲目: ハチャトゥリアン／バレエ音楽『ガイヌ』より、ヴァイオリン協奏曲、交響曲第2番『鐘』

「ハチャトゥリアンの様式感に見事に合致したダイナミックでエネルギッシュな快演を楽しませてくれた」(柴田龍一／音楽の友)

9月定期演奏会（アンドレア・バッティストーニ指揮）

9/15,16,19

曲目: リスト(バッティストーニ編)／『巡礼の年』第2年「イタリア」より ダンテを読んで、マーラー／交響曲第5番

「バッティストーニと東京フィルが完全燃焼、これまで以上に強烈で壮大な響きを創り出し、圧倒的な大団円で締めくくった。両者の深い絆を感じさせる記念碑的な演奏だった」(長谷川京介／音楽の友)

10月定期演奏会（チョン・ミョンフン指揮・演出）

10/20,21,23

曲目: ヴェルディ／歌劇『ファルスタッフ』(オペラ演奏会形式)

「巨匠の喜劇彩る遊び心」(共同通信)／「東京フィルハーモニー交響楽団は、名誉音楽監督チョン・ミョンフンの指揮により、演奏会形式に21世紀の革命をもたらした。そう言って過言でない。」(宮沢昭男／ミュージック・ペンクラブ・ジャパン)／「苦しみや悲しみを乗り越える笑いの力に、ヴェルディは最上の人間性を見いだしていた。来年の1月、70歳を迎えるチョンもまた、『ファルスタッフ』を通じ、人々の心の幸福に献身して生きてゆくという決意を聴衆に告げたかったのではないか」(吉田純子／朝日新聞デジタル)

To Be Continued...

私とクラシック

産業技術総合研究所 最高顧問
元 ソニー株式会社 (当時) 取締役代表執行役社長
中鉢 良治



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第14回は、東京フィルオフィシャル・サプライヤーであるソニーグループ株式会社(当時:ソニー株式会社)の取締役代表執行役社長を務められ、東京フィルの会長としても様々にお力添えくださった中鉢良治様。現在もパートナー会員として東京フィルをご支援いただき、また多くのコンサートに足をお運びいただいています。ソニーの技術者として活躍し、オーディオテープの開発に注力された若き日の思い出を綴っていただきました。



学生の頃、私は仙台に住んでいた。当時、仙台にはプロのオーケストラがなく、クラシック音楽は専らLPレコードで聴いた。他のジャンルの音楽も聞いていたが、大概、お酒を飲みながら本を読みながらの「ながら聞き」だった。しかし、どういうわけかクラシックだけは、お酒も飲まず物音一つも出さず、静かに「聴いた」。

就職して最初に配属されたのは、仙台にある磁気テープを開発・製造する事業所だった。仕事の一つにオーディオテープの開発があり、製品が完成に近づくと、実際に音入れをして、職場の皆で試聴した。音源はいつもピアノとヴァイオリンとヴォーカルの3種だった。試聴も業務の一部だったが、クラシック好きには格好の鑑賞の場となった。

その後、私はアメリカ南部の田舎町にあるテープの製造事業所に赴任した。そこではクラシック音楽を生で聴く機会はほとんどなかったのだが、年に一度、市がクラシックコンサートを開催し、市民に鑑賞の機会を提供してくれた。曲目は毎年ドヴォルザークの『新

世界』だったように記憶しているが、楽章ごとに盛大な拍手が鳴り響くのには驚かされた。形式にとられないアメリカ南部の人たちの陽気な楽しみ方だった。

東京に戻って、コンサートに行く機会も増えた。そんな私にクラシック音楽の楽しみ方を教えてくださったのは、大賀典雄さん(元



1990年、赴任先の米国アラバマ州ドーサン工場での中鉢氏(前列左)。中央にソニー創業者の一人、盛田昭夫氏 提供:ソニーグループ株式会社

ソニー会長、東京フィル永久楽友・名誉指揮者)だった。コンサートで一緒にいる機会があれば、休憩時間に入るなり大賀さんのところに駆け寄り、演奏曲目のこと、作曲家のこと、オーケストラのことなど、いろいろとお聞きした。大賀さんはいつもにこやかな笑みを浮かべながら、親切に教えてくださった。

新型コロナの感染が始まって3年余りの月日が過ぎた。感染が拡大した直後は、クラシックコンサートだけでなく、ほとんどすべてのイベントが中止された。命を守るか、経済を回すかの議論も多くあったが、音楽などの楽しみがないと、生活の大事な部分が欠落してしまうことも実感した。東京フィルの定期演奏会が再開され、指揮者、演奏者全員がステージ上で立礼をされた時の感動は今も忘れられない。再開の喜びを、私たち観客も分かち合えた。昨年には、コンサートなどのイベントも大方元通りとなり、生の演奏を聴く機会も増えてきた。コンサートでは、演奏が終わった後の湧き上がる拍手とブラボーの声も、また楽しみである。今年こそは、拍手とともに「ブラボー」の連呼を、生で聞きたいものだ。

コンサートの日は、少し早めに会場に入り、プログラムの解説に目を通し、指揮者と演奏者の登場を静かに待つ。

こうして私の至福の時間が始まる。

中鉢良治(ちゅうばち・りょうじ)

1947年宮城県玉造郡鳴子町(現 大崎市)生まれ。1977年東北大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士。同年ソニー株式会社(現ソニーグループ株式会社)入社。2005年同社取締役代表執行役社長。2009年同社取締役代表執行役副会長(～2013年)。2013年国立研究開発法人産業技術総合研究所理事長、2020年同最高顧問。2018年より株式会社ゆうちょ銀行取締役、2022年より日本電信電話株式会社取締役。2011年より2016年まで公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 会長。

大寒に入り寒さが身にしみるこの頃ですが、
皆さまにおかれましてはお変わりなくご健勝のことと存じます。
今月は名誉音楽監督チョン・ミョンフン氏の指揮のもと、
新シーズンの幕開けにふさわしい情熱的な演奏をお届けいたします。
本年も当楽団を何卒よろしくお願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 樫尾 和宏
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司	キヤノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	コスモエネルギーホールディングス(株) 代表取締役社長 社長執行役員 桐山 浩

サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫
理事長 柴田 弘之

新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 加賀美 猛

(株)J.Y.PLANNING
代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶
代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー
代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)
代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)
代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)
代表執行役 会長 兼 社長 CEO 吉田 憲一郎

ソニー生命保険(株)
代表取締役社長 萩本 友男

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ
総長 都築 仁子

東急(株)
取締役社長 高橋 和夫

東京オペラシティビル(株)
代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)
代表取締役社長 日覺 昭廣

トッパン・フォームズ(株)
代表取締役社長 添田 秀樹

トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 豊田 章男

DOWAホールディングス(株)
代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス
代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ
代表取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)
代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル
代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)
代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家
代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行
頭取CEO 高島 誠

三菱地所(株)
執行役社長 吉田 淳一

三菱倉庫(株)
相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行
特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)
代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治
代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)
代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)
代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器
代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)
代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア
理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)
代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育
取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス
代表取締役社長 畝森 達朗

(医)エレル たにぐちファミリークリニック
理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)
代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア
代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院
理事長 加藤 徹

(医)だて内科クリニック
理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺
代表役員 若林 隆壽

(一社)凸版印刷三幸会
代表理事 金子 真吾

(株)トレミール
代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス
代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

富士通(株)
代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)
取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)
執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

2020年からのコロナ禍において、また昨今の社会情勢において皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は今も社会に大きな影響を及ぼしています。東京フィルもまた、2020年2月下旬から数か月にわたり、出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。その後も感染状況により公演の中止や延期、チケットの販売停止など、さまざまな対応を余儀なくされました。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。指揮者と楽団員、スタッフはPCR検査や抗原検査を何度も受けて公演に臨んでおり、これらの検査に掛かる費用もまた楽団の財政を圧迫しています。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を続けてまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけますと幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行（郵便振替）	00120-2-30370	公益財団法人 東京フィルハーモニー 交響楽団
三井住友銀行・ 東京公務部（096）	普通預金 3003239	

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

東京フィル 賛助会 会員募集中

2023年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立112年を迎えます。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいりました。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
パートナー会員	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリュード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当：星野^{かのまた}鹿文)

電話：03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 巡回公演事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、さらに2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

2022(令和4)年度からは、「文化芸術による子供育成推進事業」と事業名が変更となり、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度は5月から12月にかけて、小中学校14校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催しました。

留学生の演奏会ご招待… 留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンファン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切にさせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時／土日祝休)

10月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

新井 三喜男、鈴木 一行、寺西 宏一、森川 洋典 ほか匿名希望13名 (五十音順・敬称略)

海外に在住のパートナー会員様より定期演奏会のチケットのご寄附をいただきました。

Judy&Peter Weinreb様(2023シーズン定期演奏会のうち1公演2名様)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンラインワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和土
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Iwashiki

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柁一郎 Shuichi Endo	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子○ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroschi Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	平田 慎 Shin Hirata	
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri		田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	チューバ Tubas	稲岡 宏司 Hiroschi Inaoka
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	チョ・スンホ◎ Sungcho Cho	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	大田 淳志 Atsushi Ota
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	山内 研自 Kenji Yamanouchi	荻野 晋 Shin Ogino	古谷 寛 Hiroschi Furuya
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto		
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		黒尾 文恵 Fumie Kuroo			
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets	ティンパニー& パーカッション Timpani & Percussion	
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda		川田 修一◎ Shuichi Kawata	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
	下払 桐子 Kiriko Shimobara	井村 裕美 Hiromi Imura	前田 寛人 Hirohito Maeda	中村 勇輝 Yuki Nakamura	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		森 純一 Junichi Mori		船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆ファオアシピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルバスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉2023(令和5)年1月26日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉歐文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

演奏会場の感染対策について

演奏会の開催にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続いての感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真＝三浦興一／上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、非接触式体温計等での検温を行っています



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。

頻回の手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っております。

客席内は十分な換気を行っております。

ご協力まことにありがとうございます

Tokyo Philharmonic Orchestra
Season 2023



こころの時間